

ON AIR

NO. 91

放送大学通信 オン・エア

発行月 平成20年9月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地
043-276-5111(代)

CONTENTS

特集:世界のOPEN UNIV.訪問記Ⅳ	1
エッセイ「靴のサイズと足の大きさ」	3
特集:公開講座	4
特集:学生たちの声	8
「私が通う学習センターの面接授業はここがおもしろい!」	
平成20年度開設改訂科目のご紹介	10
研究室だより	13
学習センターだより	14
図書館にゆーす	15
教務のお知らせ	16

特集 世界のOPEN UNIV.訪問記Ⅳ

いま、アメリカの遠隔教育は!

学長 石 弘光



2月末、アメリカの東海岸には雪が残りまだ寒い季節であった。そのような冬のある日、メリーランド州Adelphiにあるアメリカの遠隔教育の大学で、最も有名なUniversity of Maryland University College (UMUC)を訪れた。UMUCのキャンパスでは、学長はじめ各スタッフ、学生との面談を行い、夜、学長主催の晩餐会に招待され、暖かく迎えてもらった。訪問の目的は、アメリカの遠隔教育が一体

University of Maryland University College

どうなっているのかを探ることにあった。アメリカでは日本の放送大学が行っている生涯学習のための遠隔教育は、基本的

に市場競争による私学タイプで運営されている。州立大学であるメリーランド大学に所属するUMUCですら、公費は大学予算のわずか6.5%だという。

明らかに国費が半分以上投入されるイギリス、日本などの国営事業型とは異なる。その現状がどうなっているか、また教育方法はインターネットを主力にしたオンライン教育だと聞くが、それがどうなっているかを明らかにしたいという思いもあった。

ワシントンDCから、車で40分ほどの所にメリーランド大学のキャンパスがあり、その一角にUMUCの本部があった。氷雨交じりの中をタクシーから降り立つと、その建物は実に立派でありいささか圧倒される思いがした。正面入口で出迎えてくれた大学の教育研究担当の事務局のパーカー准教授(Mark L. Parker)と会う。彼は、私のよ



うな外来の訪問者を応接する責任者のようである。壮大な建物であるが入口のすぐ側にスターバックスのコーヒーショップがあったのは、いかにもアメリカ的だと何となく納得した。

会議室に移りパーカー氏より、早速UMUCの概説をしてもらう。パワーポイントの最初のページに、日本語で「いらっしゃいませ！」と書かれていたのには驚いた。パーカー氏の説明によると、UMUCは大体次のような大学である。1947年にメリーランド大学（現在11のカレッジ）の一部として創設された学位（degree-granting-university）を授与できる公立大学である。主として、社会人およびパートタイム学生の教育を、オンラインであたっている。学生総数は約9万人、スタッフ数は2000人（正規の教授陣は150名で、他は兼任）以上で、学生の約半分はアメリカ国内に住み、海外に住む学生の多くは世界各地にある軍事基地に勤務する軍人とその家族であるとのこと。9割の学生は社会人の勤労学生であり、特筆すべき点は学部生の半数が“first-in-family”（其の家族で最初の大学生）であるという事実で、低所得層の学歴不足を補っている。



2人の女子学生と

パーカー氏と議論した後、2人の女子学生と会うことができた。お二人とも、歳は40歳代のカリブ系アメリカ人とアフリカ系アメリカ人で、UMUCに勤務しているとのこと。彼女たちと一時間あまりおしゃべりをしたが、学生の視点からのアメリカの遠隔教育あるいはUMUC自体のことが、次第に分かってきた。UMUCの卒業生総数は約60万人、卒業率は60-64%と非常に高い。何故このように卒業率が高いかに関しお二人に質問したところ、卒業後のポストや給料が引き上げられるので、インセンティブ



が非常に高いのだとの返事であった。UMUCでは過去10年以上、オンライン教育に全面的に依存しているという。学部・大学院のコース700以上の科目は、完全にオンライン化されている。学生は、100%オンラインのコースと“ハイブリッド”コース（オンラインと面接講義の組み合わせ）の選択が可能である。この面接講義（face-to-face）ならびに学生サービスのために、地域に21の教育センターが設けられている。学生には、講師ならびに学生と直接に交流がもてる“ハイブリッド”コースのほうが人気のようである。

2人の学生に会ってから、数人の教授と日米の遠隔教育の現状で意見を交わした。その後、大学のダイニングルームで学長主催の夕食会に招かれ、副学長、学部長など6名のスタッフと楽しい一時を過ごした。Aldbridge学長は50歳代のなかなかチャーミングな女性であった。それまでの話を総合すると、アメリカの遠隔教育のおかれた環境は厳しい競争にさらされ、公費の投入はあまり期待できずなかなか大変のようであった。その中でも、学生サービスを中心に大学運営を実施しており、様々な支援（技術支援とサポート、図書サービス、入学、登録、アドバイス、奨学金など学習支援）を充実させているのが印象的であった。とりわけ驚いたのは、1セメスター（学期）で大学スタッフから学生1万3000-4000人に対し電話をかけ、直接の接触を保持していることであった。

日本の放送大学とは、また異なる遠隔教育のやり方を学びいろいろ考えさせられる訪問の一日であった。

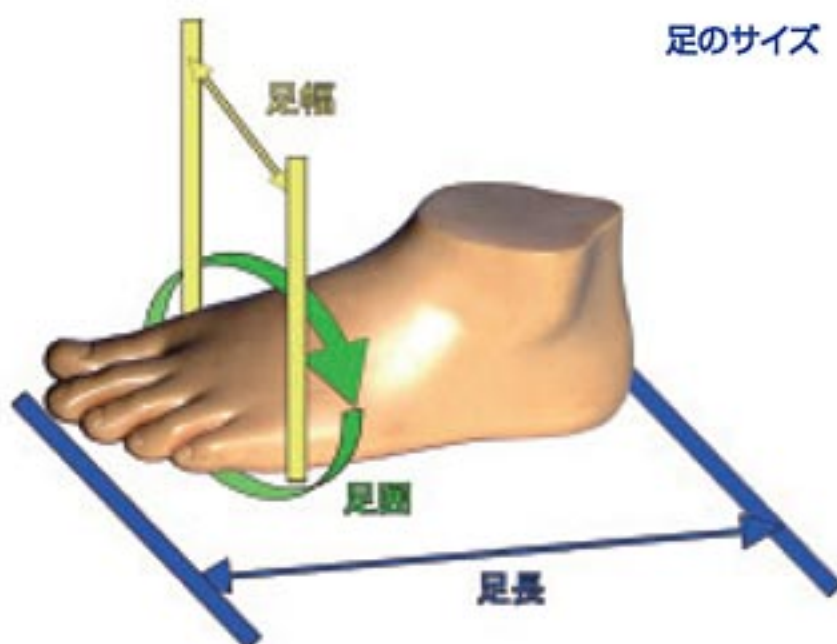
靴のサイズと足の大きさ

日本は世界に誇れるほど多くの種類の履物を所有し、それを見事に履き分けていると言われている。それには、多分に土間と座敷を有し、水周りが屋外にあるという住まいの構造に起因していたと思われる。履物は大きく開放型と閉塞型に分類され、

サンダル、下駄、ぞうり、雪駄などは前者に、モカシンに代表される靴が後者に属する。日本では、この両方の履物を用途に応じて履き分けているということである。

ただ長い履物文化の歴史にあって、多くの日本人にとって靴着用の歴史はきわめて短く、戦後に始まったと言っても過言ではない。それゆえ、足に合った靴の選び方がまだ十分に修得されていないのが現状である。例えば、通信販売での一番の売れ筋が靴であること、10人いれば20種類の足があるにも関わらず、いわゆる制服ならぬ「制靴」なるものが依然として存在すること、紐靴を脱ぐときに紐を解かない、などからも容易に推察される。

近年わが国に、各自のからだに合った履物を選んで提供する「シューフィッター」の認定制度が始まった。そのレベルに応じて3段階に分けられるが、現在、16名のマスター資格者、300名ほどのバachelor資格者、そして3,000名ほどの一般シューフィッターが認定されている。マスター資格者の友人からいただいたデータを図に示した。靴のJIS規格は、立ったときの足長と足幅ならびに足囲を基準に設定されている。男子、女子、子どもの3種類があるが、例えば男子の場合、足長250mm足囲249mmであれば2E、足囲が243mmであればE、となる。計測した9,640名の女子はEのサイズが最も多く、同



足のサイズ

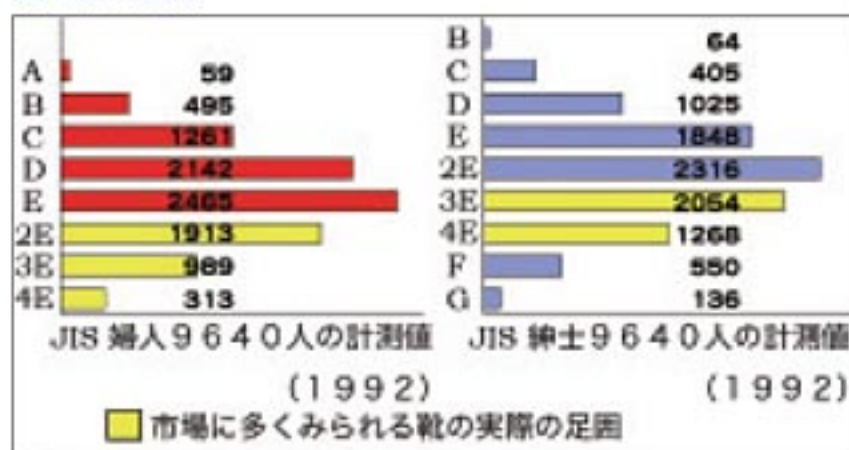


「生活と福祉」専攻 准教授
臼井 永男

様に男子は2Eが最も多かった。しかし、市場に出回っている（最も多く売れている）サイズは、婦人靴は、2E、3E、4E、紳士靴は同様に3Eと4Eであった。このことは、多くの人が大きすぎる靴を履いていることを意味する。「幅広の靴がからだにやさしい」という誤解がどこかに生じているように思われる。ぜひ一度機会をつくって足を計測され、自分に合う靴がどれであることを、確認していただきたい。

足は全身を支える土台であり、靴はその機能を高めるために着用する道具である。スポーツ科学の分野ではその重要性について話題にされる機会が増えてきた。生活と福祉専攻では「健康福祉運動指導者」という認証制（エキスパート）を設けている。これの取得を目指し、時に足元を眺めていただくことを願っている。

足と靴の実情



全国各地の学習センターで行われている公開講座を
ONAIR誌上で皆さまにご紹介します。

本号では、秋光淳生准教授と新井皓士東京多摩学習センター所長の
講座の概要を掲載します。

脳をつくる 工学モデルの研究

はじめに

最近、脳の話がブームのようで、街でもあちこち
ちで、脳を題材にしたものをみかけるようになりました。日本では、21世紀は脳の世紀と呼ばれ、様々
な分野で盛んに研究が行われています。そこで、今
回は工学の分野でどのような研究がなされてきたの
かということを説明します。

脳のモデル

脳はたくさんの神経細胞（ニューロン）から構成
されています。ニューロンはシナプスと呼ばれる結
合点で他のニューロンと結合しています。ニューロ
ンに与える刺激が小さいときは、内部の電位が少し
変化するだけで、しばらくすると落ち着いて元に戻
るのですが、刺激が大きいときには一時的に興奮状
態になり、電気的なパルスが発生します。それが神
経線維を通じて末端へと伝わり、シナプスを通して
他のニューロンへと伝わっていきます。他のニュー
ロンに伝わるときには、相手のニューロンの活動を
起こさせようとする結合と、相手の活動を抑制させ
る2種類の結合のタイプがあることが知られています。
この振る舞いを模式的に記すと図1のようになります。

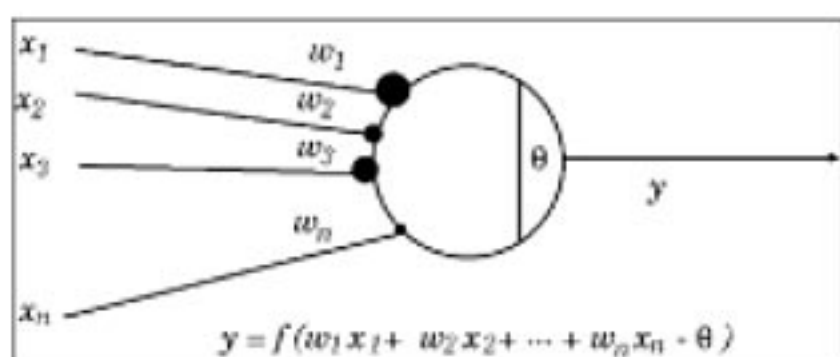


図1 ニューロンのモデル



自然の理解 准教授

秋光 淳生

xやyというのが信号の値
を意味し、シナプスの伝
わり具合を表しているの
がwで、刺激が大きい
小さいかを判断する、し
きい値にあたるものを θ
という文字によって表わ
しています。こういった
処理をするニューロンを
いろいろと組み合わせる
ことで、人間が行って
いるような情報処理が
出来るのではないかと
考えられています。



パーセプトロン

こういったニューロンを沢山組み合わせるの
に、wや θ の値を手動で割り当てるとい
うことは大変です。人間の場合、最初全
く出来なかったことが訓練によって
出来るようになったり、全く知らな
かったことを学習によって覚えてい
ったりします。では、それと同じよ
うに、例題を色々解いているうち
に、このwや θ の値を自動的に調整
して、結果的にうまく情報を処理
してくれるようにならないだろう

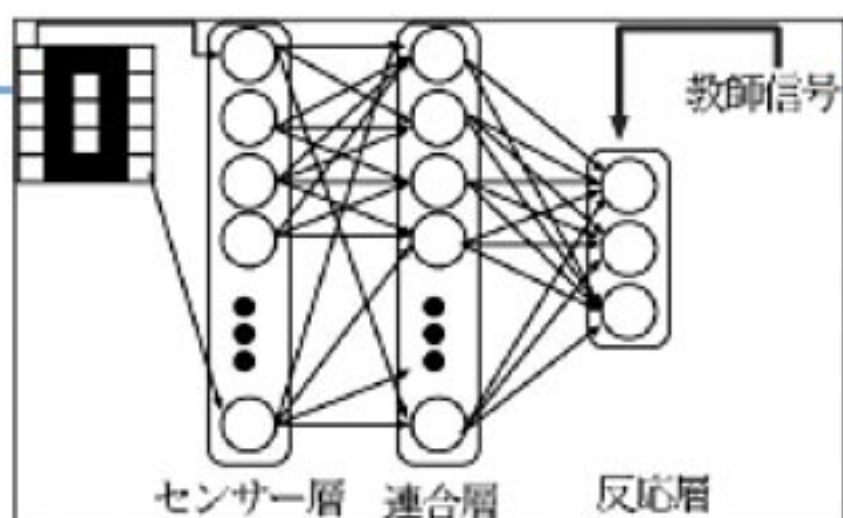


図2 パーセプトロン

か、というのが学習のモデルということになります。

1950年代に心理学者のローゼンブラットという人がパーセプトロンと呼ばれる仕組みを提案しました。それを模式的に記したものが図2です。パーセプトロンでは、網膜に相当するような信号が入るところをセンサー層と言います。ローゼンブラットは、連合層から反応層へ来ている結合だけが学習をするものとして、センサー層から連合層はランダムにつながっているものとししました。

こうした仕組みのもとで、例えば動物を見て、猫であつたら反応し、犬であつたら反応しないといったことを認識する機械を作ろうとしたわけです。さらに、「猫だから反応するべきだ」ということを教える信号があるものとします。それが図2の教師信号というものです。そして、もし、連合層のあるニューロンから刺激がきたときに、猫なのに反応しなかったのだとしたら、そのニューロンとの結合の値 w を増やして次には反応するようにします。逆に、反応してはいけないところで反応したのであれば、対応する結合の値を減らすように修正します。こういう修正を繰り返していくと最終的に正しい判断が出来るようになっていきます。ローゼンブラットは連合層に非常にたくさんのニューロンがあれば、このように学習していくことでどんな課題もこなせることを示しました。さらには、実際の脳においても、1980年代になって、小脳のプルキンエ細胞でパーセプトロンのような学習が行われていることが明らかになってきました。

バックプロパゲーション

しかし、このようにセンサー層から連合層への結合をランダムにつなぐだけでは、連合層のニューロンが非常に多く必要だということも明らかになってきました。では、センサー層から連合層への結合も学習によって変更できないかということで、1987年

代にラメルハートという人によって、バックプロパゲーションというモデルが提案されました。彼はまず信号として、0か1の2つの値を使うのではなく、0から1までの連続した値を使うようにしました。そして、一つ一つの結合が出力の誤差にどう影響を与えたのかを数式で計算できることを示しました。その結果を用いて、誤差が前よりも小さくなるように結合を修正するというモデルを立てたのです。こうして、必ず前回よりは誤差が小さくなり、狙った動きに近い振る舞いをするように学習していきます。このやり方は、毎回誤差が減るように変化していくのですが、必ずしも一番誤差の少ないところに辿りつくとは限らないという欠点があります。しかし、その後様々な応用や改良がなされ、十分に実用性があることが示されています。

このように、例題をもとに学習することによって、例題以外の問題が与えられた場合であっても、うまく答えてくれるということがあります。この能力を汎化といいます。こうしたところは、従来のコンピュータと異なる、より人間に近い処理だと言えるでしょう。

おわりに

脳の工学モデルとして、教師あり学習の代表例について説明しました。この他にも正解を用いない自己組織化学習や、報酬や罰を用いて学習を行う強化学習といった興味深い学習のモデルがあります。

脳の研究というと、解剖などの医学の分野をイメージされるかもしれませんが、このように脳における情報処理の仕組みを、モデルを利用して理論的に解明すること、またそういった仕組みを技術として実現することを目指して、工学の立場からも多くの研究がなされているのです。

(2008年7月 東京多摩学習センターにて)



猫と文学に関する断章

イヌがネコなら、ヒトはサル、てなもんやリンネさん、などと嘯くと、ハーソー大学の品位に悖るかもしれないのだが、実際、人猿犬猫の関係は結構ビミョーらしい。最近の「日本」生物分類学では、食肉目 (Carnivora) を「ネコ目」と総称することになり、かつては「ネコ (亜目)」と同格扱いだった「イヌ (亜目)」は、ネコ目イヌ科イヌ族となってしまった。その伝でいくと、ヒトも「霊長目」ではなく「サル目」ヒト科ヒト族となるわけで、分類ランク上ではサルどころかハエやノミ、ゴキブリより一見下位となる。複雑な下位分類は進化の賜物とも科学の公正さともいえるし、分類上の「目」は代表的生物名で、と単純・強引に「一元化」した結果にすぎないが、もしゴキブリ世界に科学ないし分類学があったら、ヒトは一体どう格付け・分類されるやら。これ、暇人のたわごとか。

とはいえ類人猿から分岐した人類、とりわけ現



東京多摩学習センター所長

新井 皓士

生人類 (Homo sapiens sapiens) の、おそらく最も古くからの伴侶動物がイヌであったことにはほ

ぼ異論がないようだ。この推定事実は日本の古典にも反映し、奈良時代の「記紀」では、かけがえない存在となる白犬の話や「犬婚之罪」などという奇妙な記録もあり、万葉集によれば犬を呼ぶのに「マ」と言っただけらしい。「(雪が降ると) 犬は喜び・・・猫は炬燵で丸くなる」と俗謡にあるが、ネコの仲間は一部のトラや山猫は別として、熱帯・亜熱帯気候を好んだらしく、そのせいか、温帯日本の文学にネコが登場するのは平安時代も半ば、しかもなぜか女性に関わり人間関係の^{もつ}纏れの因になりやすい。代表的なのは「源氏物語」「若菜」上下の「唐」ネコ、「枕草子」では「命婦のおもと」なる上臈ネコが登場しイヌの「翁丸」が割りを食う話など、よく知られている。紫式部はネコ型、清少納言は犬型、ともっともらしい説を聞いたことがあるが、納言は犬はあまり好きではなかったようだ、いい人が忍んできても吼えたりして無粋だから？とまれ当時貴重なネコには綱がつけられていたことには両者の証言がある。

犬と猫では、文学 (や歴史) における現れ方が異なるようだが、なぜだろうか、という^{もつ}埒も無い疑問がずっとあった。犬は一般に (時には切ない位) 忠実な友として登場することが多いのに対し、猫は何となく神秘で (時には身勝手な位) 独立的な、



公開講座風景



いわば共存者として活躍することが多いように思われる。科学の世界でも、パブロフの犬やライカ犬といえば進歩発展の犠牲として記憶され、各種イヌ・ゲノムの解説はほぼ完了して精密な分岐図が発表されているのに対し、ネコのゲノム解説・分析はまだそれほど進んでいないし、X染色体と関連し三毛猫はメスしか存在しないとか、量子論における「シュレーディンガーの猫」とか、ネコには何か不可解なものが連想される。いや、現代日本文学でも『海辺のカフカ』（ナカタさんと猫）に対し、『犬身』（献身！？）にもそれが反映し

ている？

今は昔、洋の東西で、猫を主役に抜擢した風変わりな小説を書き、その飼い猫の「死亡通知」をわざわざ友人達に送った作家がいた。『雄猫ムルの人生観』を書いたベルリンのE・T・A・ホフマンと『我輩は猫である』を書いた本郷西片町の夏目漱石、1821年と1908年、最晩年の作とほぼ処女作、片やムルと呼ばれ病身作家の親身に近い存在であったのに対し、こなた「名はまだない」ままの居候的存在ゆえ、あながち同列には論じられないが、座興ばかりに「通知」のコピーを披露して話を終えることとしよう。

（追記）講義より雑談がよかった、という年配の受講者がいた。平安時代の女性文学は世界に誇れる日本の宝、独創性だ、と昔ドイツでの講義で威張ったところ、日本の女性はステキだが男はドーモ、などと自称日本通が言うので、女が好いのは男も好いからさ、「雌雄あつての世の中でね」と、やりかえした話のことだろうか。

（2007年12月 東京多摩学習センターにて）

In der Nacht vom 29^{ten} bis zum 30^{ten} Nov. d. J.
entschlief nach kurzem aber heftigen Leiden zu
einem sehr erwünschten, mein geliebter Jüngling,
Der Vater Mann von nichten Jahren noch
mangelnden Alters, welches ihn theilnehmenden
Freunden und Freunden ganz ungeborenenzeitige
nicht ermangelte. Wer den verunglückten Jüngling
kannte, wird meinen tiefen Schmerz gesondert
und ihm — durch Schreiben hören.
Berlin d. 30. Nov. 1821. Hoffmann

（戯訳）当年十一月二十九日ヨリ三十日ノ夜中、暫時重篤ノ苦ヲ経、ヨリ佳キ生ヘト、我愛弟子・雄猫むる儀、前途有望ナル三歳半バニシテ永眠致候間、同情篤キ恩人、友人諸兄ニハ謹告不可欠事ト存候。永久ノ青年トナリシモノト夙ニ面識アル方々ニハ小生ガ心痛サゾヤト御理解アリ——カツハ無言ノ敬意ヲ表サルルヤウ願上候。

ベルリン、1821年11月30日 ホフマン

余の知る久々病気の処、療養不相叶、昨夜いつの間にかうらの物置のヘツイの上にて逝去致候。埋葬の儀は車屋をたのみ箱詰にて裏の庭先にて執行仕候。但し主人「三四郎」執筆中につき、御会葬には及び不申候。以上 九月十四日

「尋知猫儀久々病気の処、療養不相叶、昨夜いつの間にかうらの物置のヘツイの上にて逝去致候。埋葬の儀は車屋をたのみ箱詰にて裏の庭先にて執行仕候。但し主人「三四郎」執筆中につき、御会葬には及び不申候。以上 九月十四日」

（漱石）

学習センターの面接授業を受講する学生が紹介します!

私が通う 学習センターの面接授業は ここが面白い!

[東日本編]

在学生の皆さんにとって、より身近で関心の高い情報として「学生たちの声～私が通う学習センターの面接授業はここが面白い!～」を企画いたしました。各学習センターの学生から、特色ある面接授業に関連した内容について書き添えております。今月号では東日本地区の25人の学生をご紹介します。

北海道学習センター

横文字の略語が氾濫しているなかでDNAはその代表格の一つだ。暮らしの中でも深いかわりがあるのだが何のことやら縁遠い存在だった。面接授業で「DNAをとってみよう」が開講され受講した。24人が1チームになり実験台での実習、大腸菌から取り出したDNAの妖しい輝きも感動的だったが、個人学習の多い放送大学の中で学生同士が連帯しての学習が嬉しい。



久保 光昭

青森学習センター

面接授業には医学・医療系の科目が比較的多くあること。白神山や三内丸山での現地授業も人気で、県外から多くの参加があります。「縄文文化の扉を開く」は、高い考古学的価値を持つ三内丸山遺跡の見学や本物の土器や石器に触れたり、貴重な体験が出来た授業でした。土偶を手に取り感動しシャッターを押す姿が忘れられません。



中村 るみ子

岩手学習センター

「啄木と賢治の盛岡時代」は岩手県玉山出身の歌人で有名な石川啄木と岩手大学の前身盛岡高等農林学校で学び、世界の大学生が卒論のテーマに選ぶほどの岩手県花巻出身の詩人、童話作家の宮澤賢治の盛岡時代の短歌の考察で、同時代を共に生き短い人生ではあったがその功績は大きく、今日二人への関心は日本を越えて世界に広がっており、地元ゆえの授業でした。



米屋 邦雄

宮城学習センター

放送大学への入学は、持っている知識が過去のものにならないよう、特に医療面の知識の再確認と新たな学びとして心理学の学習が目的でした。心理学の学習を始めて、自分自身の理解も、家族に対する思いも、人への接し方も変わりました。放送大学は講義科目が充実していて次々と学びたい事が出来て来止まりません。この先もずっと通い続ける事になりそうです。



澤 俊博

秋田学習センター

「法医学と社会の接点」の面接授業は、人の死、特に脳死判定と臓器提供。物体鑑定では秋田城跡から発見された鎧冑の話等。また、13年間自殺率1位の秋田県なので、自殺者を少なくするにはとすることで討論し、ユニークな意見が出されました。人の死について真摯に見詰めることが出来た秋田ならではの授業でした。



長山 勉

山形学習センター

6月中旬の「森林と人のかかわり」をテーマにした、緑濃い山形大学農学部演習林における小野寺教授の面接授業は、私自身の今後の「焼き畑、赤カブ、森林保全」への取り組み方に確かな方向性をいただいた。一日目夜に開かれた特別交流会は大変楽しいものとなった。来年度もこのような面接授業を期待する。お互いに再会を決意しながら帰りのバスへ乗車した。



柳澤 卓

福島学習センター

「生涯スポーツの実践(実技)」。前期高齢者の私にぴったしの授業であった。理論として老化の進み方・休養睡眠・免疫力の向上・スポーツと五大栄養素・BMI法での肥満度チェック等々。実践は室内競技を遊びとしての実践法。各種目大いに楽しみ、最新の「太極柔力球」は魅力的。猛暑の中熱中症に気を付けて頂き、夢中になって老体を酷使してしまった。



青木 勝敏

茨城学習センター

茨城は黄門さん、納豆が有名です。茨城学習センターも頑張っています。先日宮本徹先生の「初歩の中国語」があり40名弱の学生が集まりました。13億の中国人そして世界各国に散らばっている華人、英語と共に多数との交流が見込まれます。確かに発音は大変ですが、欧米人と比較したならば、漢字圏の日本人は有利です。語学は継続です。又の面接授業を期待しています。



石川 慎二

栃木学習センター

今回初めて念願の心理学系の面接授業に参加することができました。それが片桐雅義先生の「基礎心理学実験」です。1日目は感覚知覚(錯覚)の実験、2日目は学習の実験と記憶の実験を行い、実験の後にそれぞれのデータ整理をし、最後にレポートを2週間以内に提出して終了です。この2日間の面接授業は実験等が多くとても充実したものでした。



横尾 恭栄

群馬学習センター

群馬で1番は「実用英語」だろう。授業開始から終了まで英語以外は話せない学生と話さない講師。英語の実力UPに由り授業だ。「脳の構造と機能」は、面白い。担当は高山教授。私達がいつも使っている脳や神経の構造と働きのみならず、症例別の脳と器官の関係なども理解できる。オープン授業の高山ゼミもある。



茂木 嘉之

埼玉学習センター

交通アクセス至便が自慢の埼玉学習センターで、私は堀先生の面接授業「信長・秀吉とその時代」を受講した。堀先生の授業の面白さは、古文書読みの的確さと易しい解説、史実に対する評価の斬新さにある。信長・秀吉の活動に対して、通説と異なった新たな評価が下され、受講者にとっては驚きであった。授業の合間に放たれる先生のジョークも面白い。



堀田 安彦

千葉学習センター

佐倉城址にある国立歴史民族博物館での「桓武天皇と長岡京の時代」の面接授業は、臨場感に感動し、楽しかった。「桓武と激動の時代」を開催中で、初日に長岡京の政治状況と長岡京の構造の講義、翌日は律令国家と末期古墳の授業で、実際の展示室で当時を見ながらの授業は力が入った。当時のトイレの構造が50年前の田舎の状況とあまり変わらないことにびっくり。



鈴木 康平

東京世田谷学習センター

東京工業大学の教授でもある市村禎二先生の講義は「光と色の実験科学」。地球上で起こる自然現象は、太陽からの光エネルギーが大きく関わっている。私たちの日常生活も光の恩恵を受けている。色々な光の性質や、光りが関わっている科学について考えてみよう…、といった内容で、受講生の感想は「楽しい」「解りやすい」。でも一番楽しんでいるのは市村先生ご自身かもしれない。



青柳 和夫

東京文京学習センター

文京学習センターは教育の森公園の中にあり、緑が目にも脳にも優しいセンターで環境の良いところです。私にとって面接授業は宝の山です。私は心理学を中心に学んできました。臨床心理学実習では各種心理検査、ロールプレイなど雑談あり、笑いあり、しかし高度な授業内容で人格形成にはとても良い授業でした。そして全国から仲間が集まり再会できるのも楽しみの一つです。



橋本 泰孝

東京足立学習センター

アラビア語の初心者ばかりが集まって計5回の授業。松尾先生ご指導のもと、読み書きなんとか、アラブでゴマが買えるほどの上達ぶり！
先生の人柄からか、毎回アットホームな雰囲気での楽しい授業でした。
国連の公用語でもあるアラビア語が身近なものになりますよ！



丸野 理恵

東京多摩学習センター

各時間違う講師による「裁判の話」を様々な角度から受け、法的なことには無縁だったが法律や制度を知ることが面白いと実感した。特に現職裁判官の裁判員制度に関する授業では、量刑決定の難しさ、責任の重大さを感じ不安を持ったが裁判官的確なアドバイスがあり、本番でもこのような裁判官の助けがあれば大丈夫かも、と少し安心した。



広田 美智子

神奈川学習センター

神奈川学習センターならではの面接授業である「神奈川の近現代3」を受講した。地元のことはいえ、やはり知らないことが多い。開港以来、約150年の歴史があるのだ。この開港の地で当時の歴史に思いをはせるのも魅力的だと思う。学習センターでの授業と横浜開港資料館での展示物を見学しての授業は共に楽しく実に充実していた。



曾我 将之

新潟学習センター

「お肉の科学と夢の加工食品」の夢のという内容を知りたくて受講した。食品の加工に1000気圧以上の圧力で処理し、非加熱殺菌、食感を損ねず安心安全、高齢者対応など、画期的な食品として産学官連携で製品となっていることを知った。「虫と細菌の不思議な関係」などもユニークで、他県からの受講生も多かった。



庄司 和義

富山学習センター

「水と環境と雪氷環境」では、水が地球を循環することでの自然現象、例えば雲の形や雪崩現象などを物理的側面からアプローチした。また「病気になる免疫学」では、アレルギーのしくみなどを分子レベルで学習し、健康で生活するためのヒントを得た。いずれの講座も登山など自然が豊富な富山で楽しく行動するために有益であった。



上田 修

山梨学習センター

日蓮上人と枝垂桜で有名な身延山久遠寺にて、望月海蔵講師の坊を宿泊地としての「仏教思想と現代生活」の面接授業に参加した。法華経の伝来、文字のない時ゆえ諸々に解釈され伝播した事、又、それらの教えを現代生活にどう活かしてゆくか等々。早朝の読経体験後の境内散策、深い霧に包まれた人里が眼下に現れた様は、龍が天に昇ってゆくようで心震えた。



相吉 千里

長野学習センター

長野の面接授業「環境科学実習」は、諏訪湖とその流入河川の水質調査を行います。初日は船で湖に出て、簡単な水質項目の測定と試料採取を行ってから講義を受け、翌日は実験室で試料の測定と生物観察を行いました。この授業には県外からの学生の参加もあり交流を深めることができました。また、朝のすがすがしい中での湖畔散策も最高でした。



村 憲明

岐阜学習センター

私が育った豊かな自然環境に恵まれた場所にある岐阜学習センターで、岐阜大学林先生の「濃尾の近世史」を受講しました。授業では、濃尾地方の豊かさは自然のみでなく歴史の豊かさでもあり、濃尾三川（木曾・長良・揖斐）が育んだすばらしさである事を学びました。この地域の中で私自身、今後も心身共に豊かに育んでいけたらと改めて思いを馳せた時間でした。



小島 俊児

静岡学習センター

産地偽装等々「食の安全」に関する事と、「メタボ」に関心が高まってきているこの時期に、衛藤客員教授の「体のために何を食ったらよいのか2」は誠にタイムリーで有意義であった。特に身近な食品をとり上げての化学的見地からの解明や製造方法など一見堅苦しい話の中にも笑いが一杯の授業風景に終始し、次回への期待の声も聞かれるほどの盛会さであった。



江島 勝也

愛知学習センター

定年退職後入学して3年の間に21科目もの講義形式と実験形式の面接授業を受講した。授業内容はどれも素晴らしく質問多く大変盛り上がった。「心理学基礎実験」のグループ作業で、私は担当分をミスした。「シマッタ！遅れてしまう。グループに申し訳ない！」そんな矢先若い方が「私が協力しましょう。」との声、まさに「助け合い」授業に感動しました。



近藤 繁

三重学習センター

大型海洋観測船で伊勢湾をクルージング。三重大学の所有する勢水丸で、波静かな伊勢湾を走りながら海洋観測の見学をする。美人の三等航海士がいたりして楽しい。近い将来に新造船で一泊面接授業の予定。酒の持込みはOKだそうで、デッキで月を仰ぎながら、夕風に吹かれながら酒を飲んだら、熊野水軍の長の気分が味わえるかも…。



橋本 立身

哲学への誘い('08)

人間の探究 教授 佐藤 康邦

基礎科目としての哲学の授業を作成するに当たって、まず私が配慮したことは、まだ哲学を学んだことがない、あるいは哲学を敬遠する気持ちの強い学生の皆さんにも哲学という学問の魅力を知っていただけるものを作らなければということであった。そのためにも、ここではあえて入門書的なスタイルは取らず、哲学が哲学以外の様々の文化領域に属す事柄とどのように出会うのかを検討するという方式を選んだ。(それには、既に放送されている私の「現代を生きる哲学」が入門書的役割をはたしているという理由もあった)。そこで、この授業では哲学プロパーの部分は全体のなかば位にとどめ、一見哲学とは無縁に見える対象のうちに哲学的要素を見つけ出し展開するという態度が貫かれている。たとえば13回以降の、絵画技法としての遠近法のうちに哲学的内容を求め、



佐藤 康邦 教授

様々の角度から検討した箇所などその好例と言えよう。また、哲学者プラトンを扱う場面でも、かしこまったプラトン哲学の概説ではなく、彼の対話篇を恋愛文学として読むということが試みられている。

一口に哲学と言っても、その内容には様々のものがある。私がここで扱ったテーマは多岐にわたっているとは言え、哲学の一部にすぎないとも言えるだろう。しかし、いずれのテーマも、永年西洋哲学研究を専門にしてきた私にとって愛着の深いものばかりである。その点では、本科目では、一部は、これによって私自身が哲学へと誘われたという主題が扱われている。したがって、初心者ばかりではなく、すでに哲学についてかなり勉強されている皆さんにも新鮮な興味をいだいて頂けたらという願いもある。

地域教育の創造と展開('08)

発達と教育 准教授 岡崎 友典
明星大学 教授 (放送大学客員教授) 高島 秀樹
国学院大学 准教授 (放送大学客員准教授) 夏秋 英房

「地域教育」、あまり耳慣れない教育用語を表題に冠し、しかも「創造と展開」としたのは、この用語・概念がまだ定着していないと思われるからです。教育といえばまず学校教育、そして家庭教育、社会教育、企業内教育などが教育界で用いられてきました。近年は、生涯学習を支援するといった意味で、「生涯教育」の重要性も指摘されています。

本科目は、先行科目「家庭・学校と地域社会」(2004年度)を大幅に改定し、人間の成長・発達といった社会的な作用(教育)をになう地域社会の果たす役割を明らかにするために、地域教育といった概念・用語を用いています。1970年代以降、家庭、学校と並んで、地域の「教育力」の復権が叫ばれている点を重視し、家庭・学校を支える地域社会の変容を的確に把握す



沖縄取材 宜野湾市にて

るように努めました。

学校、家庭、地域の「連携・融合」の必要性が叫ばれていますが、これは子どもだけではなく大人を含め、人間形成に果たす地域社会の力が極端に弱体化した、というよりも、地域社会そのものが成立しなくなったことを示しています。連携・融合の相手の地域社会を、学校と家庭が創造しなければならないといった、現代的課題をそこにみることができます。

教材では、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地の具体的な教育実践の事例を、「地域教育社会学」の理論と方法を用いて分析・考察しています。履修生の皆さんが、身近な地域での教育体験・実践を大切に、学習を深めていただければ幸いです。

コンピュータのしくみ('08)

放送大学 副学長 岡部 洋一

コンピュータといえばパソコン、あるいは科学技術用のスーパーコンピュータなどを思い浮かべるでしょうが、実はマイコンなどと名前を変えて、車、テレビ、はては洗濯機、炊飯器といった家電製品にいたるまで、生活のあらゆるところにまで入りこんでいます。幸い、デジタル回路であるコンピュータは、その動作原理が比較的簡単なため、説明がしやすいだろうと思って、こうした講義を作りました。

全講義が、コンピュータのことをほとんど知らないアナウンサーの遠藤さんとの対談形式で作られており、しかも「わからないときにはわからないといってください」とお願いしてあったため、学生さんの立場で対応していただき、比較的聞きやすい番組になったかなと思っています。



岡部 洋一 副学長

私は副学長として、教育のインターネット支援を担当していることもあり、こ

の講義は、いろいろな努力をして、インターネット配信できるように作成しました。このため、今は、大学のWebページからもリンクされ、誰でも見ることができるようになっています。

また、通信制大学の欠点である双方向性の欠如を少しでもなくそうということで、この講義に関しては、Webによる学習システムを採用し、お知らせや議論のページ、直ちに正答かどうか分かる通信指導問題のシステムなどをテスト的に採用しています。今後の放送大学の指針になればと思っています。

数理ファイナンス('08)

上智大学 教授
(放送大学客員教授) 津野 義道

数理ファイナンスは、1950年代に誕生した新しい学問分野である。研究対象は、株式投資における効率的な投資戦略や、証券市場の構造になる。これらの研究対象を、数学を用いて調べる事が目標になる。したがって、「数学」が積極的に活用される。

第I部（第1回～第8回）で、株式投資における効率的な投資戦略を解説する。投資戦略の「効率性」は、投資における期待収益率（リターン）と投資に伴うリスクで判定する。リスクの指標として「収益率の分散値」を採用する。株価データから、2つのパラメータ「平均と分散」をとりだして投資戦略を分析するので、この方法を「平均分散分析」あるいは、「2パラメータ分析」という。

第II部（第9回～第15回）で、証券市場の基本構造を調べる。その基礎になる考え方は、「証券投資では確実に儲ける投資戦略は存在しない」というもの



津野 義道 教授

である。このような証券市場を「無裁定証券市場」という。無裁定条件の応用として、「各種の金融派生商品

（デリバティブ）の価格がどのように決められるのか」という問題を考える。

数学の予備知識 第I部では、線形代数学（行列とベクトル）や、解析学（偏微分、条件付極値問題）が利用される。多数の証券を投資対象とする場合、とくにベクトルの利用が便利になる。

第II部では、連立1次方程式の構造が応用される。少し高度な定理（Stiemkeの定理）を1つ使うが、それを認めれば、実際の例題で用いられる数学は、「連立1次方程式の解法」になる。「数学」を復習しながら、あるいは並行して履修しながら、数理ファイナンスの世界を散策するのも楽しいかもしれない。

社会階層と不平等('08)

東北大学大学院教授
(放送大学客員教授)

原 純輔

東北大学大学院教授
(放送大学客員教授)

佐藤 嘉倫

東北大学大学院教授
(放送大学客員教授)

大淵 憲一

この授業のキーワードは「社会的不平等」と「社会階層」です。私たちの社会に存在し、何らかの社会的仕組みによって生じると考えられる不平等が「社会的不平等」です。その仕組みを概念化して、人びとを区分けしたものが「社会階層」です。この授業では、社会的不平等の実態と仕組み、さらにはその意味について、さまざまなデータを用いながら追究します。

焦点となるのはいうまでもなく現代日本社会ですが、近世—近代—現代—未来という歴史的視点と、韓国・中国・台湾・インドネシアという近隣社会、さらには欧米社会を見渡す国際的視点という、2つの視点がつけ加えられています。これら広い意味での比較の視点の中で、日本社会の特徴はよりよく浮かび上がってくるでしょう。日本やアジア各地の映



原 純輔 教授



佐藤 嘉倫 教授



大淵 憲一 教授

像を織り交ぜながら進められるのも、この授業の特徴の1つです。

いま社会では「格差」に関する話題が沸騰していますが、この授業ももちろん大きなかわりをもっています。「格差」という言葉は、社会的に許されてはならない不平等という意味で使われていますから、格差や不平等について人びとがもつ「市民感覚」は大切にしなければなりません。しかし一方で、あらゆる不平等をすぐに「格差」と決めつけてしまうのではなく、きちんとしたデータや分析にもとづいたもう少し冷静な考察と議論が必要です。この授業が、格差や不平等の問題について冷静にかつ深く考える契機になってほしいと思います。

社会福祉における権利擁護('08)

生活と福祉 教授 大曾根 寛

この科目は総合科目として新規に開設されたものである。総合科目とした理由は、社会福祉の基本的な学習を終えた方が、法律学の知識も応用しつつ、社会福祉の世界における権利の内容と実現の方法を学び取って欲しかったからである。

近時、社会福祉の現場においても、家庭や職場などにおいても、子ども・高齢者・障がい者たちへの虐待・拘束・財産侵害・人格を傷つける行為等が、しばしば問題にされるようになっている。本科目ではこのような問題が生じてくる背景と実情を明らかにしながら、成年後見制度、苦情解決システムなどの解決方策、予防策を検討している。

右の写真は、社会福祉と権利擁護の関係をテーマとする「面接授業」（福井学習センター）の一風景であるが、グループ討議や主体的な調査を通じて、



大曾根 寛 教授

権利侵害の実態を知り、具体的な対応策が学生自身によって論じられていることをイメージすることができるであろう。

この写真からもわかるように、社会福祉における権利擁護の実現は、専門家や家族が一人で背負うものではなく、関係する方たちの共同の議論を通じて、課題と方向性を見い出していくものなのである。



新しい人生、新しい仲間、 そして、新しい自分の発見

私の現在の研究テーマは人間の自我が他者とのかわりにおいて社会的に形成されることを理論的、経験的に明らかにすることです。とりわけ、他者とのコミュニケーションを通じて、自我の社会性とともに関人の主体性が生み出されることに焦点が置かれています。

着任4年目の放送大学では、放送授業として「自我の社会学」、「21世紀の社会学」、「現代コミ



ュニティ論」、「社会的自我論」、そして、社会と経済の先生方と共同の



「市民と社会を考えるために」、「市民と社会を知るために」を担当しております。また、面接授業を千葉（3回）、長崎、福島、岐阜、そして、今年には福岡、宮城、静岡の各学習センターで行う予定です。

船津ゼミの現在の大学院生は30名、学部生4名、これまでの修了・卒業生はそれぞれ13名、9名です。年齢、職業、関心などまことに多様であり、ゼミでの熱のこもったディスカッション、苦勞しながらも見事な作品ができあがっていく論文作成過程はすばらしく、私自身学ぶところ大です。そして、面接授業の際に、ゼミのOB、OGと再会できることも楽しみの一つとなっております。

●修了生からのコメント●

私の船津ゼミの2年間は、現在の地域社会における課題解決に取り組むための、幅広い知識を得るものでした。また、ゼミ仲間の研究課題は、地方分権化や経済破綻、グローバル化等で噴出するさまざまな問題・課題・現象に焦点を当てたものでした。ゼミでのこれらの貴重な経験は、修了後の実生活の中で、よりクリアに自分の考えを整理でき、多く活かされているように思えます。世界的にも大きく変動する社会の中にあっては、どの世代においても、また年齢の老若にかかわらず、タイムリーな社会的リテラシーを身に付けることが、どれほど重要であるかを実感しているところです。（桑島 恵美子）



今春、船津先生のゼミを修了いたしました。私にとってこの2年間は、人生のすべてが濃縮されたような有意義、かつ楽しく、感動し続けたひとときでした。修



士論文という大きな、恐ろしいような課題を何とか乗り越えることができたのは、船津先生のお優しい笑顔と的確なご助言、ゼミの皆様との温かな交流の賜物です。新潟県中越沖地震の被災地であり（新潟県柏崎市）、人間として枯渇するような復旧の日々に、一縷の光明をいただいたのは、船津先生、ならびにゼミの皆様からのご心配と励ましのメールでした。特に船津先生からいただいた2通のお手紙は生涯の宝物です。真の学びとともに、深い人との結びつきを教えてくださいました。（前川 いく子）

楽しく学び・楽しく語らう、山梨学習センター

山梨学習センターは、甲府駅と武田信玄の住んでいた館跡にある武田神社の中間にあり、甲府駅からバスで100円で来られます。武田信玄の住んでいた館跡である武田神社もすぐそばです。山梨大学と同じキャンパス内にあり、2004年に新築された建物で気持ちよく勉強できます。

●楽しく学びましょう

家で一生懸命勉強するのもいいのですが、学習センターにおいでいただくと気分転換になり、勉強が進みます。視聴覚室で静かに勉強することも出来ますし、声をかけていただければ、勉強の仕方、記述式の試験における文章の書き方、勉強した内容を生活に生かし人生を豊かに過ごす方法などをお話しします。



学習センターのスタッフ

●楽しく語らいましょう

ホットコーヒーが50円で飲めるコーヒーショップを開設しました。お弁当を暖める電子レンジ、インスタントラーメンを作るためのポットも置きました。暑くなったので、アイスコーヒーも飲めるようにしました。コーヒーを飲みながら、勉強の話、人生の話をしましょう。また、心臓がけいれんを起こしたときのためのAED（自動体外式



除細動器）と血圧計を設置しました。高齢の学生さんがみえますが、学習センターでは安心して勉強ができます。



●体を動かす面接授業

山梨学習センターでは、金属を加工して5分間まわり続けるコマを作るもの

づくり、極低温の超電導の世界、台所でできる化学実験など、体を動かして理解する面接授業があります。山梨学習センターは快適ですので、県外の方もぜひ面接授業においで下さい。

●一緒に旅行に行きましょう

昨年の10月に東京電力館、船の科学館を見学しました。総勢42名で、バスの中で自己紹介をしながら、行きも帰りも楽しく過ごしました。今年は、10月5日に、島崎藤村ゆかりの馬籠、妻籠に研修旅行に行きます。皆さん一緒に参加しましょう。

船の科学館



●サークルで一緒に語らいましょう

山梨学習センターには、心理学研究会、あるこう甲斐、P & Cサークル（パソコンと写真のサークル）があります。心理学研究会、P & Cサークルでは、自分の興味に合わせた勉強ができますし、あるこう甲斐では、健康になります。

●顔の見えるホームページを作りました

勉強しながら自分たちで作ったので体裁はそろっていませんが、それぞれの個性が見えるホームページになっています。学習センターからのお知らせも載せますのでご愛読下さい。

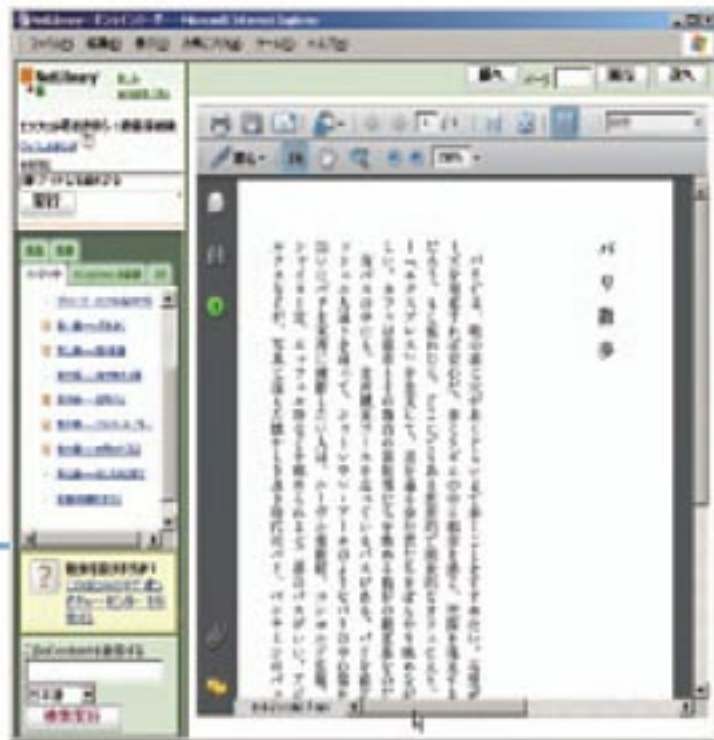
<https://www.campus.u-air.ac.jp/~yamanashi/>
もしくは「放送大学 山梨学習センター」で検索

山梨学習センター

甲府市武田4-4-37（山梨大学キャンパス内） 〒400-0016
（甲府駅からバスで5分程度。料金は100円） 電話：055-251-2238

電子ブックサービス開始!

4月から、図書館ホームページのデジタル・コンテンツを大幅に充実しました。学内のパソコンから、ご利用いただけます。今すぐ、お試し下さい。



NetLibrary (ネットライブラリー)

- オンラインで本を読むことができる eBook (電子ブック) のコレクションです。
- 「ベルグソン全集」「宮本常一著作集」をはじめ、現在、和書360冊を利用できます。
- 紀伊國屋書店、有斐閣、みすず書房、大学出版など、学術図書が中心。
- 横断検索・全文検索の検索機能のほか、辞書やメモなどの便利な機能が付いています。
- 蔵書検索OPACからも検索することができます。

eBookコレクションで、イマドキの読書。



聞蔵Ⅱビジュアル (きくそうツウ)

- 朝日新聞オンライン記事データベース「聞蔵」が、パワーアップ。記事の本文テキストだけでなく、紙面イメージまで見られるようになりました。
- 戦後(1945年)から今日までの記事745万件全文が検索できます。
- 地域面のほか、AERAや週刊朝日の記事、知恵蔵の現代用語も収録。情報収集には欠かせません。
- シンプルな画面で、使い方は簡単です。

デジタル朝日新聞を強化、百聞が一瞬なり。



JapanKnowledge (ジャパナレッジ)

- 百科事典・辞書・ニュース・学術サイトURL集などを集積した日本最大の知識データベース。
- 「日本大百科全書」「日本人名大辞典」「大辞泉」「ランダムハウス英和辞典」などなど、30以上の事典・辞書に加え、「東洋文庫」「週刊エコノミスト」の全文も収録。
- 映像記録ライブラリでは、リンドバーグをはじめ、歴史的人物の肉声を聴くことができます。
- 充実の百科空間です。

歴史も体感、お役立ちの知識探索サイト。

図書館のホームページから
アクセスできます。



放送大学附属図書館 (http://lib.u-air.ac.jp/)

- 今回、ご紹介のサービスは、図書館ホームページからアクセスすることができます。
- 一部サービスのご利用は、学内からアクセスした場合に限られますが、蔵書検索OPAC、論文検索Ciniiなどは、ご自宅からご利用になれます。
- 「主任講師が選んだ参考文献」も掲載しています。ぜひご活用ください。

あなたの「学び」をサポートします。

「名誉教授称号授与式」を挙行

総務企画課

6月11日(水)学長室において、3月に退任された浜口允子前教授に対し、石学長より放送大学名誉教授の称号を授与しました。
 今回1名の方に授与したことにより、平成14年に名誉教授称号の制度ができてから放送大学名誉教授の称号を授与された方々は17名になりました。
 なお、これまでに名誉教授の称号を授与された方々は次のとおりです。

氏 名	称号授与 年月日	氏 名	称号授与 年月日
渡 邊 二 郎 (H20没)	H14.4.1	傳 田 章	H16.4.1
平 川 曉 子	H14.4.1	阿 部 齊	H16.4.1
三ツ木 任 一	H14.4.1	伊 藤 貞 夫	H16.4.1
麻 生 誠	H16.4.1	森 谷 正 規	H18.4.1
酒 井 豊 子	H16.4.1	野 山 嘉 正	H19.4.1
濱 田 隆 士	H16.4.1	杉 本 大 一 郎	H19.4.1
渡 邊 守 章	H16.4.1	仙 波 純 一	H19.4.1
宮 澤 康 人	H16.4.1	丹 保 憲 仁	H19.5.1



前列左から荻野副学長、浜口名誉教授、石学長、岡部副学長
 後列左から池原事務局長、柏倉附属図書館長

平成20年度第2学期面接授業(毎週型・土日型)科目の追加登録

学習センター支援室

10月から始まる第2学期面接授業(毎週型・土日型)について、
 空席がある科目は追加登録をすることができます。
 登録機会は3回、日程等は以下をご確認ください。

	空席発表日	登録受付期間	10月に 新規入学・継続入学 された方の申込み
第1次追加登録	9月11日(木)	9月17日(水)~9月21日(日)	×
第2次追加登録	10月中旬	10月下旬	○
第3次追加登録	10月下旬頃	11月上旬頃	○

空席状況(追加登録の対象となる科目)は、空席発表日以降・各学習センターの掲示・キャンパスネットワークホームページ(<http://www.campus.u-air.ac.jp/u-air/>)でお知らせします。受講したい科目をご確認のうえ、登録受付期間内に、当該科目を開講する学習センター・サテライトスペースの窓口にご越してください。

※登録の際は必ず、学生証(コピーは不可)・授業料をご持参ください。

※登録受付の方法等詳しくは、当該科目を開講する学習センター・サテライトスペースへお問い合わせください。

2009年度新規開設科目から 印刷教材(テキスト)の 文字を大きくし、見やすくします。

学生の皆様からの意見を踏まえ、2009年度新規開設科目から印刷教材の文字サイズを現在の9ポイントから原則10ポイントで作成することにいたしました。これにより、読みにくいということや目が疲れるということが改善され、これまで以上に印刷教材を楽に読むことができるようになります。

2009年度からの学部の再編成について

2009年度からの学部の再編成に関する情報については、「ONAIR」本号に掲載する予定でしたが、9月に別便にて小冊子をお送りすることになりましたのでそちらをご覧ください。また、再編に関する小冊子とともに、学生の皆様に利用していただきます新システム利用のための仮パスワードも併せてお送りする予定となっています。

編 集 後 記

この夏、2つの国際会議に参加した。遺伝学全般を対象とした参加者数千人の大きな会議と、ある微生物を対象とした参加者100人程度の小さな会議である。前者は、ヒトの遺伝に関わる最先端の話題や著名な研究者の話を聞くことができた点で有意義であったが、話が一方通行であり臨場感に欠けていた。後者は全員が共通の課題に取り組んでいることもあり、活発な議論が行われた。目的が異なるためにこのような違いが生まれるのであろう。放送大学の授業にもこの2面性は存在する。放送授業は前者であり、面接授業や研究ゼミは後者である。学生の皆さんも、本号の面接授業の記事などを参考に、生の授業に参加して積極的に質問や発表を行ってみませんか。(二河)

放送大学通信 オン・エア 編集委員(平成20年度)

委員長 教授 柏倉 康夫

副委員長 教授 松村 祥子

委員 准教授 岡崎 友典

准教授 原田 順子

准教授 坂井 素思

准教授 島内 裕子

准教授 二河 成男

編集事務担当 教務部学習センター支援室



放送大学

<http://www.u-air.ac.jp/> ISSN 1343-3369

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@u-air.ac.jp